

## 学校感染症と出席停止について

学校感染症に指定されている病気になり患った場合は、本人の休養と他人への感染を防ぐ為、出席停止の措置がとられ欠席扱いになりません。これは学校保健安全法で定められています。次の表の感染症にかかったことが判明した時は、主治医と相談の上、担任の先生に連絡して学校は欠席してください。

病気が治り登校する際に、生徒手帳か所定の書類「学校感染症による欠席届」（HPダウンロード可）に保護者が記入し、速やかに担任に提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症になり患し、出席停止解除後はマスクの着用を推奨いたします。

### 学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準

分類	病気の種類	出席停止期間
第一種感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄縁(ポリオ) ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MARS)、特定鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	治癒するまで
第二種感染症	新型コロナウイルス感染症	発症から5日経過し、且つ症状が改善した後1日を経過するまで。 なお、無症状の感染者については、検体採取後5日を経過するまで。
	インフルエンザ(特定鳥インフエザ及びインフルエンザ等感染症を除く)	発症から5日を経過し、且つ解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘(みずぼうそう)	すべての発疹がか皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消失した後2日を経過するまで
	結核	症状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められるまで	
第三種感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症(感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症、溶連菌感染症等)	病状により学校医その他の医師において、伝染のそれがないと認められるまで